

2016 年

6 月

福岡県連協活動報告

福岡県学童保育連絡協議会

〒805-0067 北九州市八幡東区祇園 2 丁目 4-22
TEL093-662-6000・FAX093-662-6006
E-mail gakuhoren@fukuoka-gkd.jp
発行・福岡県学童保育連絡協議会



福岡県学童保育連絡協議会（以下、福岡県連協）に加盟して下さっておられるクラブ・個人・賛助会員の皆様、併せて働きながら子育てする保護者の皆様、そして支援員と共に日頃よりご尽力くださっていることに感謝し、合わせて県連協へのご協力ありがとうございます。

以下、5月の活動報告を行います。

5/14～15 全国合宿研究集会

今回は全国研の会場となる愛知県で合宿研修が行われました。増山均（早稲田大学教授・日本学童保育学会代表理事）氏に、「学童保育と子どもの放課後を考える―学童保育の原理的理解をめぐる主要な論点に注目して―」と題して開催されました。

国による 2014 年 4 月に公布された「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準」に基づき、2015 年 3 月に「放課後児童クラブ運営指針」を策定し、同年 4 月から学童保育は市町村条例と運営指針に基づいて運営されています。その一方で国は「放課後子ども総合プラン」の推進を発表しました。国は、全ての児童の安全・安心な居場所を確保するため、同一の小中学校内等で両事業を実施し、共働き家庭等の児童を含めた全ての児童が放課後子ども教室の活動プログラムに参加できるものが「一体型」であり、実施に当たっては、特別な支援を必要とする児童や特に配慮を必要とする児童にも十分留意などの考え方を示し、放課後児童クラブは基準に基づき生活の場として実施していく。「一体型」と「一体化」は違うと説明しています。

この一連の国の動きに、学童保育関係者として、学童保育の生活や子どもの放課後をどう捉え、考えていかなければならないかの増山先生から講話としての方向性を見いだしていただき、次の日は、放課後子ども総合プランの実施が進んでいるかいらないか、どういう見解をもって働きかけることが大事か！を議論しました。

全国的には、このプラン通りに進めている自治体は少なく（すでに実施している地域もあります）まだ“様子を見ている”感じを受けました。福岡県内の自治体も同じような状況と思いますが、まだ油断はできません・・・

増山先生の話は「子どもたちにとっての放課後は、子どもたちは自由世界と三間（時間・空間・仲間）の中で育ち合うことが大事。その環境の中でこそ子どもたちは人と人との関係性を知り、学び合い、子どもらしく発達成長していき、大人へととなっていく。そしてこの関係が失われつつある地域環境の中において、学童保育がいかに子どもたちにとって大事な環境となる。そういう学童保育であり、放課後であってほしい。そのためにどうしたら良いのか？の課題提起を議論していくことも大事」というお話でした。

5/13 保護者向け研修 19:30~21:00

大木町こども未来課よりの依頼により、保護者を対象にした研修会を開催しました。当日は、保護者をはじめ支援員など 24 名の参加となりました。昨年度からの「子ども・子育て支援法」による新制度の施行にともない、「放課後児童クラブ運営指針」の理解を深めること、また、その中で特に保護者が学童保育運営にとって大きな役割を果たしていることを学び合いました。感想として、子どもたちが主体となる「子ども会議」の役割や、保護者と支援員が共同して子育てする学童保育への理解が深まった、などの声が多く出されています。今後もより多くの保護者が今回のような学習をする場が必要との声もありました。今回の講師として、引き続き、保護者のみなさんが学ぶ場を広げていくことが重要だと実感しました。

5/19 北九州市学童保育連絡協議会指導員会研修

9:30~11:30

北九州市学童保育連絡協議会指導員会の依頼により、「放課後児童クラブ運営指針」の理解を深めることを目標に研修しました。特に「運営指針」をどのように具体化するか、という視点で「子ども会議」を提起しました。学童保育運営で子どもたち自身がどうすれば主体的に生活や遊びを展開できるか、また、異年齢の子ども集団として自主性、主体性を高めるためには支援員の関わり方はどうありたいか、等を考え合うことができました。「運営指針」は、学童保育の運営や仕事をする上で、最も重要な基準となります。より多くの支援員が「運営指針」を学び、自ら実践することをめざすことが必要となっています。

5/29 第5回新人研修 10:00~15:00

◆会場：春日市クローバープラザ 東棟 508

◆学習内容「放課後児童クラブ運営指針を学ぶ」 森元 茂利（県連協事務局長）
「放課後児童支援員の仕事と役割」 吉岡 美保（放課後児童支援員）
「学童期のあそびの理解と支援」 鍋倉 功（放課後児童支援員）

参加者は 127 名（加盟 49 名・非加盟 78 名）25 市町村から近年にない多くの参加者数でした。年齢構成は 20 代前半から 60 歳過ぎの方、経験は数カ月から数年と幅広く様々な方々が学びあいました。感想では学童の役割、役目、歴史、現状がよくわかった。支援員として学ぶことばかりで、一步一步子どもたちと歩んでいきたい。「運営指針」を現場に活かす、実践することの大切さがわかった。こんな支援員になりたいと目標が持てた。などの声が出されました。

**読売新聞社から学童保育所への
本の寄贈！！**

読売新聞社は、5年前の東日本大震災の時から全国の学童保育クラブに対し、約40冊5万円相当の絵本及び児童書を毎年2000ヶ所に寄贈してくださっています。そして今年もこの事業が行われます。

読売新聞社から「本寄贈申込案内」届きますので、是非必要事項を記入の上申し込んでください。抽選により2000ヶ所に寄贈されますので、ぜひ申し込んでください。※すでに寄贈されている学童保育クラブには案内は届きませんのでご了承ください。

日本の学童ほいく誌！6月号のみどころ(#^#)

子どもたちの作文やイラストを全国連に送り、子どもたちの作文やイラストを載せてもらいましょう！！ 開くのが楽しくなります(#^#)

詳しくは福岡県連協へ・・・

<6月号の見どころ>

先日、九州も梅雨入りをし、スッキリしない天気が続いています。なんだかココロまで暗くなってしまうですね。そんなときこそ“ほいく誌”です！

6月号のテーマは『伝えることから始まる「伝えあい」』です。みなさん、相手に気持ちを伝えていますか？『伝える』なんて、指導員にとっては基本中の基本かもしれませんね。そんなこと出来ていると思っている指導員も多くいることでしょう。しかし、保護者の立場からすれば、自分が関われない時間の好きなわが子のことをもっともっと詳しく知りたい、伝えてほしいと思っているのではないのでしょうか。伝えあうことによりお互いに信頼関係ができ、それは結果として子どもの安全・安心につながっている。そんな当たり前のことを再認識させてくれる特集になっています。保護者・指導員、それぞれの立場からの投稿がありますので、お互いの考えを知るという点でもぜひ読んでみてはいかがでしょうか。

また、本誌中ごろの、『空を見上げてみませんか？』では、雨にまつわるお話が書いてあります。九州も雨の季節を迎えています。これを読んで、雨と上手にお付き合いしていただけたらなあと思います。

6月号を読み終わった時、あなたの目の前にいる人に、ぜひ一言、自分の気持ちを伝えてみてください。きっとお互いココロがほんわかしてくると思いますよ。

<各種研修会案内>

第 51 回全国学童保育研究集会in愛知 2016 年 10 月 29（土）～30（日）

第 51 回目となりました全国研！今年は愛知開催です。案内リーフレットは 6 月中旬に！日本の学童ほいく誌では 7 月号に掲載されます。毎年、日本全国の保護者、支援員約 5000 名が集結し、子どもたちを真ん中に保護者・支援員・専門家を交えて学び合い、議論をかわす全国研！愛知の子どもたちの歓迎行事も合わせて感動します。是非ご参加お待ちしております。リーフレットが届きましたら、各地域市町村に配信しますので、ご参加ください。

<県連協活動予定>

★6 月 5 日 第 3 回運営委員会開催
13:00～ 会場：クローバープラザ

★6 月 25 日 熊本県連協訪問

★7 月 3 日 第 9 回役員会／第 37 回県連協総会

平成 28 年熊本地震

学童保育支援募金の呼びかけ

平成 28 年熊本地震 学童保育支援募金の振込先

- ・みずほ銀行（銀行コード：0001）
- ・本郷支店（店番：075）
- ・普通預金 4022450
- ・名義：全国学童保育連絡協議会

◆問い合わせ先：全国学童保育連絡協議会 事務局

TEL 03-3813-0477 FAX 03-3813-0765